

呉市地域公共交通網形成計画の達成状況の評価（令和5年度）

呉市地域公共交通網形成計画の達成状況の評価するために設定した評価指標について、実績値と達成状況は次のとおりです。

全体をとおして、目標値未達成の指標が多く、特に利用者数に関連する指標(指標番号1・2・5・6)は目標値を大きく下回っています。利用者数については、回復傾向にあるものの、コロナ禍前の水準までの回復は難しいと考えています。

また、令和6年度中に目標達成見込みの評価指標が2項目あり、引き続き、計画期間中の達成に向けて取り組みます。

【達成状況基準】

- ：達成できた。
- △：達成できていないが、取組実績はある。
- ×：未達成(大幅な減少)もしくは未実施。

指標番号	評価指標	目標値 (令和6年度)	評価サイクル	現状値 (平成30年度)	令和5年度			達成状況が△又は×の要因	達成に向けた今後の方向性
					実績	増減率	達成状況		
1	公共交通利用者数 (鉄道・路線バス)	現状維持(※1)	毎年度	JR呉線:896万人	JR呉線:795万人	-11.3%	×	人口減少と路線移管による利用者の減少を加味した上で利用者数の推移を分析すると、コロナ禍後も利用者数が回復していない状況である。	長期的な視点で自家用車から公共交通による移動への転換を図るために、住民・企業・学生といった属性に応じたモビリティ・マネジメント施策を展開する。 また、地域住民や地域の事業者との意見交換を行いながら、運行ルート、ダイヤ、待合環境などの改善により、利便性の向上を図っていく。
		現状維持(※1)		広電バス:783万人	広電バス:498万人(※2) (生活バスへの移管路線分を含めると、553万人)	-36.4%			
2	公共交通利用者数 (生活交通・航路)	現状維持(※1)	毎年度	生活バス・乗合タクシー:48万人	生活バス・乗合タクシー:92万人 (生活バスの路線数が増加しているため参考数値)	91.6%	-	乗合タクシーと生活バスの令和元年以降に移管された路線では、コロナ禍より利用者数が増加した一方で、生活バスの令和元年以前に移管された路線では、利用者が減少しており、目標値未達成の要因となっている。	
		現状維持(※1)			航路:8.7万人	航路4.1万人			
3	公共交通に対する満足度(市民意識調査)	満足度の向上	5年ごと	-0.2ポイント (平成26年12月実施)	-0.297ポイント (令和元年12月実施)	-	×		
4	公共交通を含む移動確保に対する呉市の負担額(高齢者・障害者等へのバス運賃助成、スクールバス運行委託、タクシー助成等含む)	現状以下	毎年度	1,264,897千円	1,567,855千円	24.0%	×	遠距離等通学費助成や高齢者・障害者等へのバス運賃助成等が減少している一方で、陸上交通及び航路交通の運行に係る負担額が増加しており、呉市の負担額増加の主な要因となっている。	利用実態に応じた適正化を図るとともに、地域主導による移動手段の導入、運賃収入以外の収入源の確保などにより、財政的な持続可能性の向上を図っていく。
5	地域内交通の1便当たりの平均利用者数 (生活バス・乗合タクシー)	現状維持(※1)	毎年度	8.1人/便	5.9人/便 6.5人/便 (令和元年10月及び令和4年10月移管分除く)(※3)	-27.2% -19.8%	- ×	人口減少と路線移管による利用者の減少を加味した上で利用者数の推移を分析すると、コロナ禍後に利用者数が回復していない状況である。	指標番号1,2と同様
6	地域内人口一人当たりの地域内交通の年間利用回数(生活バス・乗合タクシー)	現状維持	毎年度	3.34回/人・年	3.35回/人・年 3.07回/人・年 (令和元年10月及び令和4年10月移管分除く)(※3)	0.3% -8.1%	- ×		
7	新たな移動手段の検討又は既存の移動手段の改善検討の数	1件/年 延べ5件以上	毎年度	-	1件/年(延べ12件)	-	○		
8	バスロケーションシステムに対応した表示器設置数	5か所以上増設 合計11か所以上	毎年度	6か所	0か所(合計8か所)	-	×	設置に向けた協議を実施したが、実現に至った件数は0件となった。	生活バス全路線にバスロケーションシステムを導入予定であり、近隣の施設等への表示器設置を見据えて、医療機関、商業施設、福祉施設等との協働に取り組んでいく。
9	交通結節点・乗継拠点等における利用環境の改善数	1件/年 延べ5件	毎年度	1件/年	0件/年(延べ3件)	-	×	ベンチ、上屋の設置に向けた協議を実施したが、実現に至った件数は0件となった。	指標番号8と同様に、駅、バス停及び船着き場だけでなく、近隣の施設等の活用を見据えて、利用環境の改善を図っていく。
10	生活バスのバリアフリー率 (ノンステップバス導入率)	70%以上	年度ごと	43%	69.2%	-	△ (令和6年に達成見込み)	計画的な車両更新に取り組んでいるが、目標達成には至らなかった。	令和6年度は中型ノンステップバスを2台購入予定であり、目標達成の見込みである(ノンステップバス率:76.3%)。
11	モビリティ・マネジメントの実施件数 (学校行事等での乗り方教室)	10件/年 延べ50件以上	施策実施した年度ごと	8件/年	12件/年(延べ41件)	-	△ (令和6年に達成見込み)	令和5年度は学校行事等の乗り方教室を10件、高齢者向けの乗り方教室を2件実施した。	令和6年度も継続してイベントへの出展、乗り方教室を実施するとともに、令和7年度以降は次期計画に基づき、新たな視点での取組を検討していく。
12	関係者との協働・連携による取組の実施件数 (エコ通勤イベント、待合環境整備等)	3件/年 延べ15件以上	毎年度	3件/年	0件/年(延べ4件)	-	×	医療機関への乗り入れなど関係者との協議は実施したが、実現に至った件数は0件となった。	引き続き、交通事業者、医療機関、商業施設等の関係者との連携を推進していく。
【参考】人口減少率(対平成30年度)				-	-9.0%(△約20,100人)				

(※1)人口減少率の範囲内における利用者の減少は、現状維持とみなします。

(※2)指標1の広電バスの利用実績は、令和元年10月及び令和4年10月に呉市生活バスへ路線移管があったため、11路線から8路線に減少した実績となっています。

(※3)指標2、指標5及び指標6の生活バスの利用実績は、令和元年10月及び令和4年10月に広島電鉄株式会社からの路線移管があったため、上段には全体実績、下段には移管分(9路線)を除いた実績を併記しています。

第8章 計画の達成状況の評価

1 評価指標と目標値

全体的な目標

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標1 公共交通利用者数 （鉄道・路線バス）	JR呉線：896万人 広電バス：783万人	現状維持 ※
<p><u>指標の算定方法</u> 交通事業者から利用実績の報告を基に集計し、把握します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 人口減少による利用者の減少が予想される中、移動ニーズに合わせた交通網への再編や利用促進策等を通じて、公共交通利用者数の減少を人口減少率の範囲内に抑制し、利用者数を維持することを目標とします。</p> <p>※人口減少率の範囲内における利用者の減少は、現状維持とみなします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標2 公共交通利用者数 （生活交通・航路）	生活バス・乗合タクシー：48万人 航路：8.7万人	現状維持 ※
<p><u>指標の算定方法</u> 交通事業者から利用実績の報告を基に集計し、把握します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 人口減少による利用者の減少が予想される中、移動ニーズに合わせた交通網への再編や利用促進策等を通じて、公共交通利用者数の減少を人口減少率の範囲内に抑制し、利用者数を維持することを目標とします。</p> <p>※人口減少率の範囲内における利用者の減少は、現状維持とみなします。</p>		

本計画の基本方針を実現するため、計画期間中に達成すべき目標の評価指標及び目標値を以下のとおり設定します。

目標 1 まちづくりと一体となった効率的な公共交通ネットワークの形成

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標 3 公共交通に対する満足度 （市民意識調査）	－0.2ポイント	満足度の向上

指標の算定方法

呉市が概ね5年ごとに実施している呉市市民意識調査で、公共交通の満足度を把握します。

評価サイクル

5年ごと（直近調査：平成26年度）

目標値の考え方

公共交通に対する満足度が向上することを目標とします。

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標 4 公共交通を含む移動確保に対する呉市の負担額 （高齢者・障害者等へのバス運賃助成，スクールバス運行委託，タクシー助成等含む）	【平成30年度決算額】 1,264,897千円	現状以下

指標の算定方法

市が公共交通に関する呉市の負担の実績値を整理します。

評価サイクル

毎年度

目標値の考え方

人口減少等により，利用者が減少し，公共交通を含む移動確保に対する呉市の負担額の増加が予想される中，利用者数の維持，運行の効率化等を行い，呉市の負担額を現状以下とすることを目標とします。

目標2 地域の実情に応じた移動手段の確保

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標5 地域内交通の一便当たりの平均利用者数	8.1人/便	現状維持 ※
<p><u>指標の算定方法</u> 交通事業者からの利用実績の報告を基に、集計し、把握します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 人口減少による利用者の減少が予想される中、運行改善、利用促進等を行い、一便当たりの利用者数を維持することを目標とします。</p> <p>※人口減少率の範囲内における利用者の減少は、現状維持とみなします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標6 地区内人口一人当たりの地域内交通の年間利用回数	3.34回/人・年	現状維持
<p><u>指標の算定方法</u> 地域内交通（生活バス、乗合タクシー）の運行地区のみを対象として、地区の一人当たりの公共交通の年間利用回数を把握します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 施策実施により、地区内の一人当たりの地域内交通の年間利用回数が維持されることを目標とします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標7 新たな移動手段の検討または既存の移動手段の改善検討の数	—	1件/年 延べ5件以上
<p><u>指標の算定方法</u> 数値を把握し、整理します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 既存のサービスが非効率となっている路線を中心に、各年度1路線以上の見直しの検討を行う目標とし、延べ5路線を目標とします。</p>		

目標3 誰もが利用しやすい公共交通環境の充実

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標8 バスロケーションシステムに対応した表示器設置数	6ヶ所 （平成26～30年度）	5ヶ所以上増設 合計11ヶ所以上
<p><u>指標の算定方法</u> バスロケーションシステムに対応した表示器の設置数を把握し、整理します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> バスロケーションシステムに対応した表示器を増設することで、公共交通の利用環境の向上を図ることを目標とします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標9 交通結節点・乗継拠点等における利用環境の改善数	1件/年	1件/年 延べ5件
<p><u>指標の算定方法</u> 数値を把握し、整理します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> 交通結節点として設定する呉駅、新広駅、昭和市场センター周辺、鍋棧橋、乗継拠点等における利用環境の改善を年間1件、延べ5件を目標とします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標10 生活バスのバリアフリー率	43%	70%以上
<p><u>指標の算定方法</u> 呉市生活バスで使用するバス車両のうちノンステップバス車両が占める割合</p> <p><u>評価サイクル</u> 年度ごと</p> <p><u>目標値の考え方</u> 国が「移動等円滑化の促進に関する基本方針」において定める、ノンステップバス導入率（目標値70%）に基づき設定</p>		

目標4 公共交通に関する意識の醸成

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標11 モビリティ・マネジメントの実施件数	8件／年	10件／年 延べ50件以上
<p><u>指標の算定方法</u> モビリティ・マネジメントを実施した件数を市が把握し、整理します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 施策実施した年度ごと</p> <p><u>目標値の考え方</u> 市民の公共交通の利用意向・満足度を向上させるため、学校行事等においてバスの乗り方教室を年間10件程度実施することを目標とします。</p>		

評価指標	現状値（平成30年度）	目標値（令和6年度）
指標12 関係者との協働・連携による取組の実施件数	3件／年	3件／年 延べ15件以上
<p><u>指標の算定方法</u> 呉市が数値を把握し、整理します。</p> <p><u>評価サイクル</u> 毎年度</p> <p><u>目標値の考え方</u> エコ通勤イベント、待合環境整備など、交通事業者、呉市、市民、商工団体や観光施設等と連携した取組を年間3件、延べ15件以上の実施を目指します。</p>		